

令和7年度『全国学力・学習状況調査』 座間市立小・中学校全体の結果と傾向

国語・算数・数学・理科・児童生徒質問紙からみた傾向

座間市教育委員会

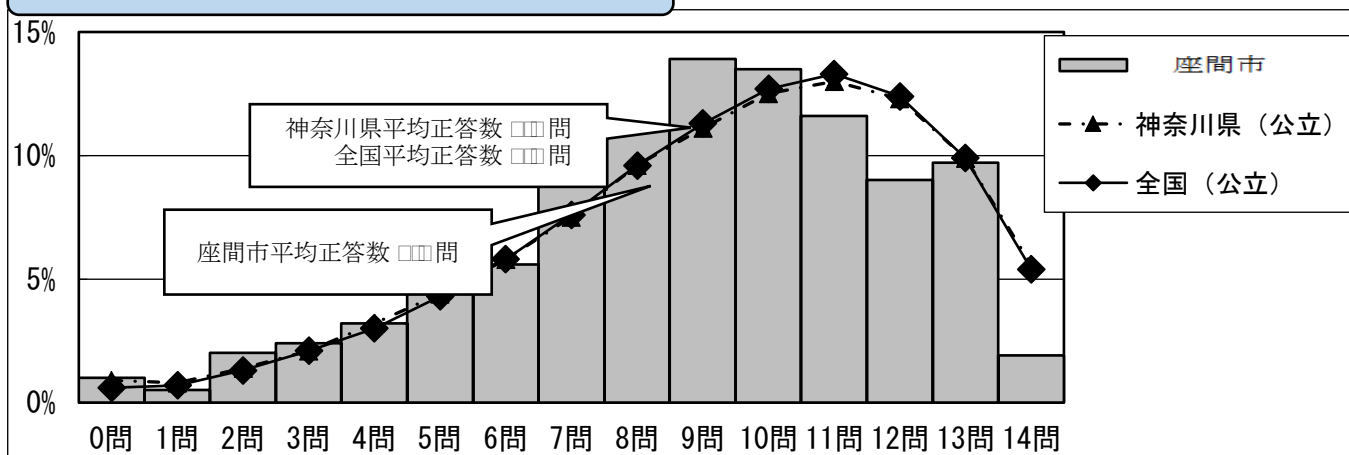
令和7年10月

分類・区分別平均正答率

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
				座間市	神奈川県(公立)	全国(公立)
全体			14	63	66	66.8
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	2	68.3	73.3	76.9
		(2) 情報の扱い方にに関する事項	1	61.2	63.7	63.1
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	79.1	81.3	81.2
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	64.3	66.5	66.3
		B 書くこと	3	69.5	69.9	69.5
		C 読むこと	4	52.5	57.5	57.5
評価の観点	知識・技能		4	69.2	72.9	74.5
	思考・判断・表現		10	61.1	63.9	63.8
	主体的に学習に取り組む態度		0			
問題形式	選択式		9	63.4	65.5	64.7
	短答式		3	71.1	75.9	78.5
	記述式		2	52.3	56.8	58.8

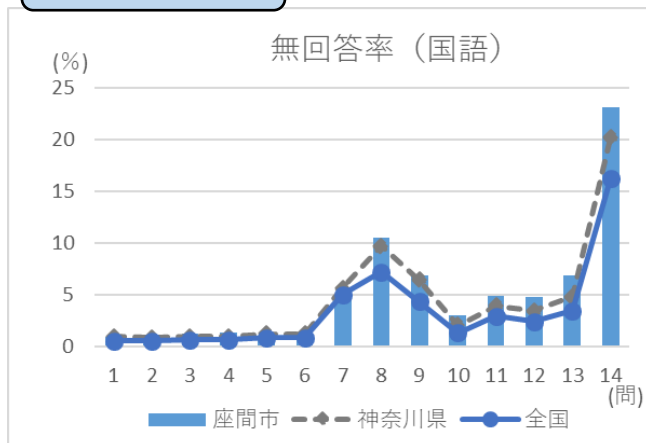
- ・各領域「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の中では、特に「読むこと」の正答率が全国より下回っています。
- ・問題形式では、特に短答式、記述式の正答率が全国より下回っています。

正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)

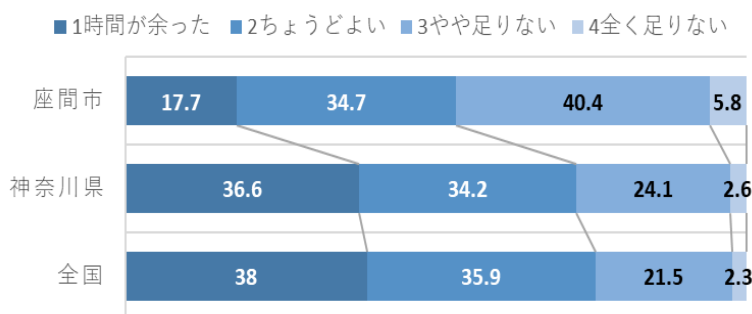


- ・11問目以降の正答した児童数の割合が県、全国と比べて低いです。
- ・10問目までの正答した児童数の割合が県、全国と比べて高いです。

無回答率グラフ



解答時間は十分だったか(国語)



- ・14問目の問題は、県・全国と比べて特に無回答率が高くなっています。質問紙調査「解答時間は十分だったか」で「足りない」と回答した児童が多いことを合わせて考えると、最後まで問題を解き切れていない児童が多いことが推測されます。

回答率が高いが正答率が低い問題の例

(1) 【話し合いの様子】の A に当てはまる内容として最も適切なものを、次の 1 から 4 までのの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

言葉の変化については、いろいろな考え方があんだね。もう一度「資料 1」を読み返して、言葉の変化について自分が一番納得したことをまとめよう。

【資料 1】の 1 部 ①
【資料 1】の 2 部 ②
【資料 1】の 3 部 ③
【資料 1】の 4 部 ④

【資料 2】
「雨模様」の意味のとらえ方
(文化庁「令和 4 年度国語に関する世論調査」による。)

世代	15～19 歳	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代以上
雨が降りそうな様子	50.4	43.5	42.9	34.1	33.4	33.6	39.8
小雨が降ったりやんだりしている様子	31.9	42.9	53.7	53.9	61.2	52.6	66.2

【資料 3】
「話し合いの様子」
「ぼくが読んだ二つの資料（「資料 2」、「資料 3」）には、言葉が変化していることが書かれていたよ。【資料 1】に「言葉の正誤を軽々しく決めることはできない」と書かれていることにつながっているよ。

【資料 4】
私は、この資料（「資料 4」）を見つけたよ。これを見ると、世代によって、「雨模様」の意味のとらえ方にちがいが分かれるでしょ。
本当だ。三十代から六十代は本来の意味とはちがう「小雨が降ったりやんだりしている様子」ととらえている人の割合が高いね。
こんなふうに、人によって言葉の意味のとらえ方がちがうと、伝え合うときに困ると思うよ。だから、【資料 1】に「A」と書かれていると思うよ。

木村さん 田中さん 木村さん 田中さん 木村さん

【木村さんのメモ】
言葉の変化について分かったこと
「あたらしい」は新しい形
(奈良時代) → (平安時代) → (今)
あたらしい → あたらしい
時代とともに言葉の形が変わる。
とてもできる？できない？
(室町時代) (大正時代より前) (今)
どうせ ↓ どうしても、とてい ↓ 非常に

(2) 【木村さんのメモ】の A の中に入る適切な言葉を「資料 2」の中から書きぬきましょう。

【木村さんのメモ】の I に当てはまる内容として最も適切なものを、「資料 3」を読み、次の 1 から 4 までのの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

1 時代とともに言葉の意味が変わる。
2 時代とともにものの使い方が変わる。
3 世代によってもものの呼び方がちがう。
4 世代によって言葉の使い方は変わらない。

設問二(2)
趣旨
事実と感想、意見などとの関係の叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかをみる

設問三(1)
趣旨
目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる。

分析結果

事実と感想、意見などとの関係の叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えつつ、書き手が文章で取り上げている内容や考えの中心となる要旨を把握することに課題があります。

また、目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして、文章の中から、目的に応じて必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりすることに課題があります。

指導改善のポイント

○文章全体の構成を捉えて要旨を把握するために

書き手の考えを自分の言葉で短くまとめるなどして、内容の中心を捉えることができるよう指導することが必要になります。その指導の際に、文章の各部分だけを取り上げるのではなく、全体を通してどのように構成されているのか叙述を基に正確に捉えることができるように指導することが大切です。

○目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を整理できるようにするために

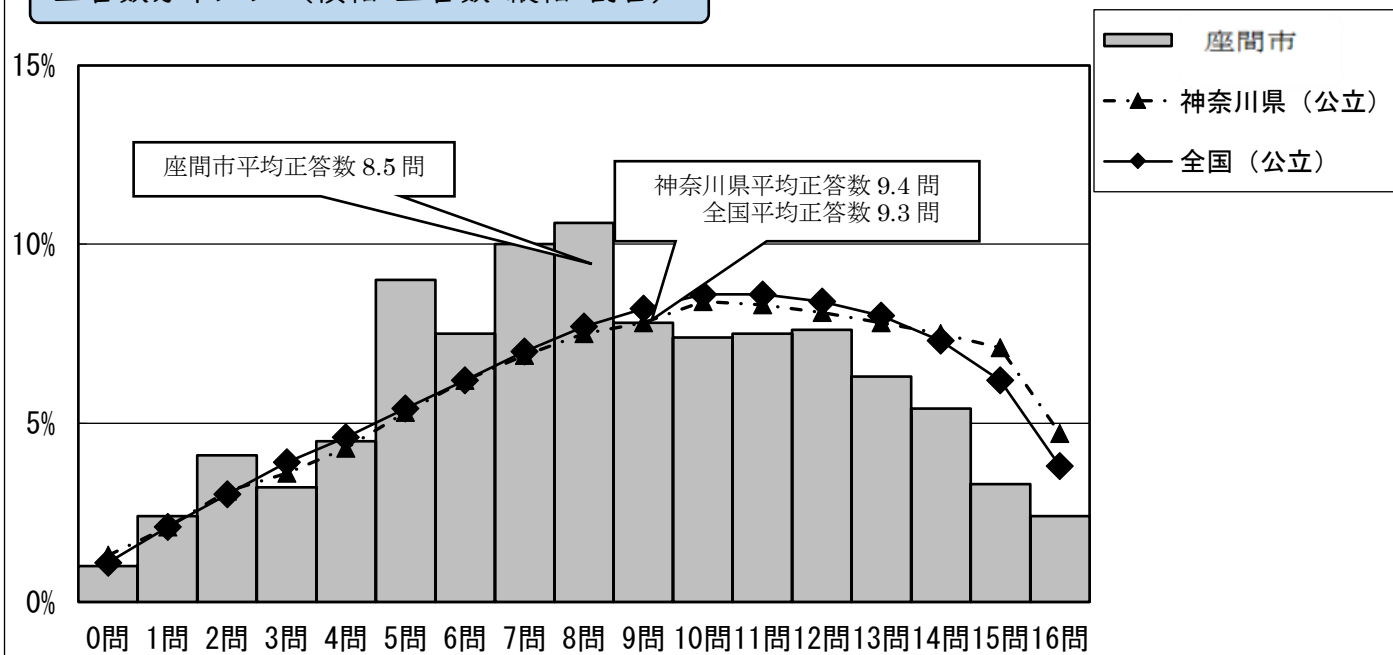
文章中に用いられている図表などが文章のどの部分と結び付くのかを明らかにしたり、文章と図表などの関係を捉えて読んだりすることで、内容についてより深く理解したり、解釈したりすることができるよう指導することが大切です。その際、図表からも必要な情報を見付けたり、見付けた情報を言葉に表したりする活動も大切です。

分類・区分別平均正答率

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			座間市	神奈川県（公立）	全国（公立）
全体		16	53	59	58.0
学習指導要領の領域	A 数と計算	8	57.8	63.5	62.3
	B 図形	4	49.8	55.8	56.2
	C 測定	2	46.8	55.1	54.8
	C 変化と関係	3	53.0	59.9	57.5
	D データの活用	5	59.3	63.2	62.6
問題形式	選択式	6	63.7	68.7	67.2
	短答式	6	58.5	64.2	64.0
	記述式	4	28.4	35.4	34.9

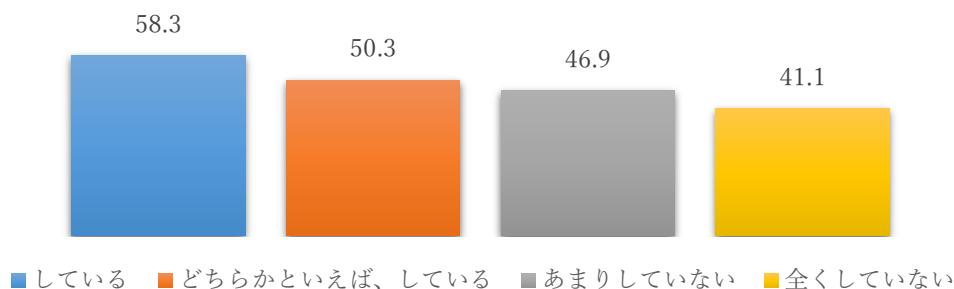
- ・各領域の中では、特に「図形」「測定」の正答率が全国より下回っています。
- ・問題形式では、特に短答式、記述式の正答率が全国より下回っています。

正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)



- ・13問以上正答した児童数の割合が県、全国と比べて低いです。
- ・正答数が半分以下(0~8問)の児童数の割合が県、全国と比べて高いです。

学習したことを普段の生活の中で活用できているか×正答率のクロス集計



学習したことを、普段の生活の中で活用できている児童ほど、正答率が高くなっていることがわかります。

全国の正答率を下回った問題の例

- (2) あいりさんは、自分たちが住んでいる都道府県Aのブロッコリーの出荷量が、増えたかどうかを調べています。調べていると、2013年と2023年について、右のグラフ2とグラフ3を見つけました。



グラフ2とグラフ3を見つけたけれど、どちらか1つのグラフを見れば、都道府県Aのブロッコリーの出荷量が、増えたかどうかわかります。

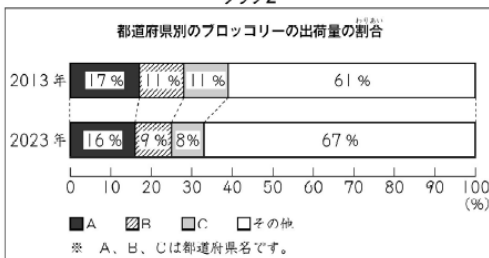
2023年の都道府県Aのブロッコリーの出荷量が、2013年より増えたかどうかを、下のアとイから選んで、その記号を書きましょう。

また、その記号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。そのとき、どちらのグラフのどこに着目したのかわかるようにしましょう。

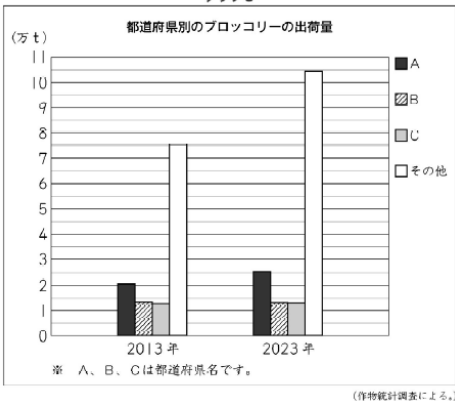
ア 2023年は2013年より増えた。

イ 2023年は2013年より減った。

グラフ2



グラフ3



設問1(2)

趣旨

目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。

- (4) わかなさんたちは、図3のような五角形アイウエオの面積の求め方を考えています。

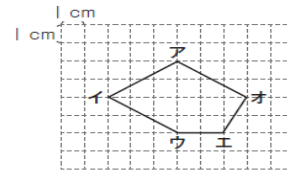


図3

わかなさんたちは、三角形や四角形の面積の求め方が使えるように、図3の五角形アイウエオを、2つの図形に分けようとしています。



私は、直線イオをひいて2つの図形に分けようと思います。



私は、直線ウオをひいて2つの図形に分けようと思います。

わかなさんとゆうたさんのどちらの分け方でも、五角形アイウエオの面積を求めることができます。

五角形アイウエオを2つの図形に分けて面積を求めるとき、あなたならどちらの直線をひいて求めますか。2つの図形に分ける1本の直線を、下の1と2から選んで、その番号を書きましょう。

また、2つの図形の面積がそれぞれ何cm²になるのか、それらの求め方を、図3の中から必要な長さを調べて、式や言葉を使って書きましょう。ただし、計算の答えを書く必要はありません。

1 直線イオ

2 直線ウオ

※ 必要ならば、下の公式を使って考えてもかまいません。

- ・ 長方形の面積＝たて×横
＝横×たて
- ・ 正方形の面積＝1辺×1辺
- ・ 平行四辺形の面積＝底辺×高さ
- ・ 三角形の面積＝底辺×高さ÷2
- ・ 台形の面積＝(上底+下底)×高さ÷2
- ・ ひし形の面積＝対角線×対角線÷2

設問2(4) 趣旨

基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる。

分析結果

- ・ 目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を記述することに課題が見られました。
- ・ 基本図形に分割することができる図形の面積の求め方は理解できているが、式や言葉を用いて記述できていないことがわかりました。

指導改善のポイント

○様々なグラフの特徴を理解し、目的に応じて適切なグラフを選択してデータの特徴や傾向を捉え判断し、その判断の理由を表現できるようにするために

データの特徴や傾向を捉え判断し、その判断の理由について、グラフのどの部分やどの数値に着目したのかを説明するなど、他者に分かりやすく表現できるようにすることが大切です。

○多角形の面積の求め方について、基本図形の面積の求め方を基に考察できるようにするために

どのような図形に分割したのかを明らかにして、分割した図形の面積を求めるために必要な辺の長さなどを捉え、その図形の面積を求めることができるようにすることが大切です。

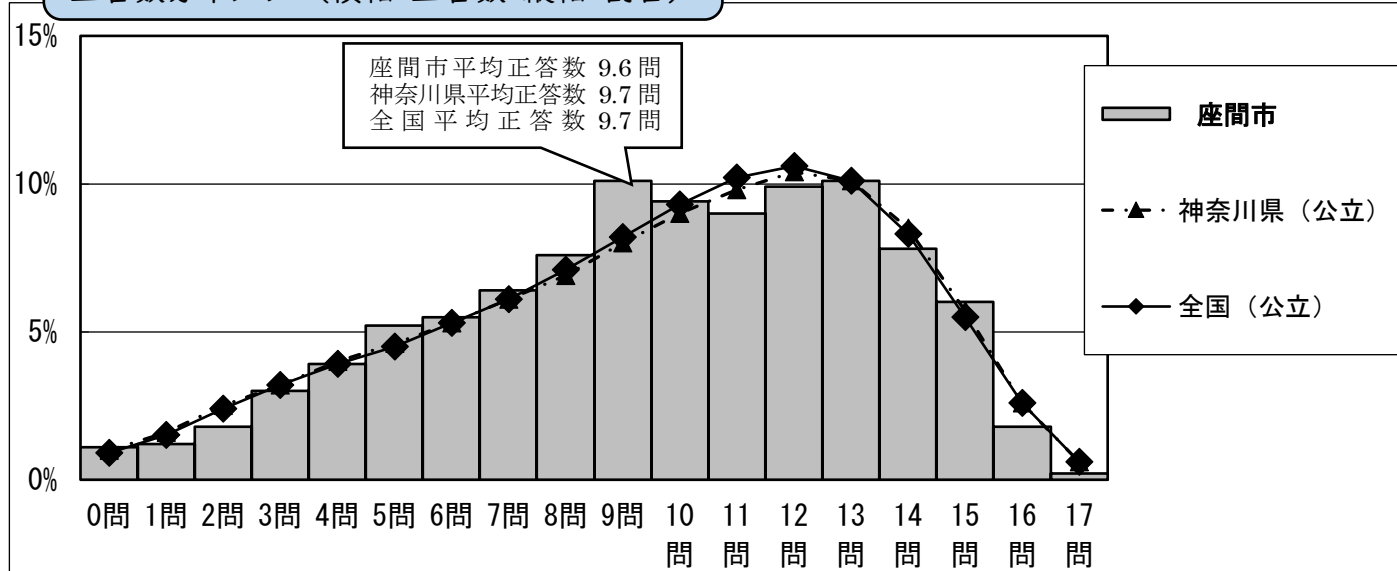
分類・区分別平均正答率

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
				座間市	神奈川県（公立）	全国（公立）
全体			17	56	57	57.1
学習指導要領 の区 分・領 域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	4	45.4	46.6	46.7
		「粒子」を柱とする領域	6	50.6	51.7	51.4
	B区分	「生命」を柱とする領域	4	52.7	51.2	52.0
		「地球」を柱とする領域	6	65.9	66.6	66.7
問題形式		選択式	11	54.6	55.4	54.7
		短答式	4	69.0	68.1	69.7
		記述式	2	42.2	43.5	45.2

(注)「学習指導要領の区分・領域」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の問題数を合計した数は「全体」の問題数とは一致しない。

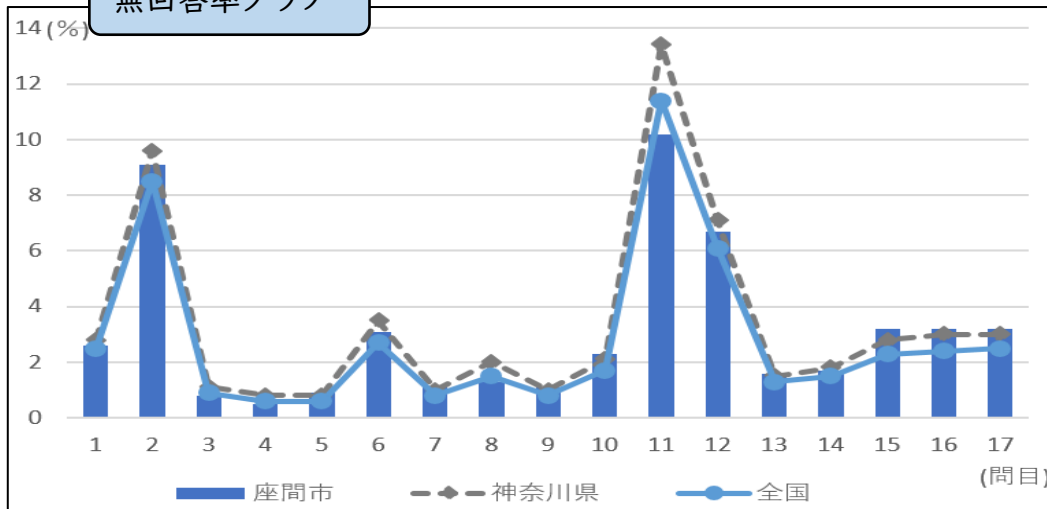
- ・各区分・領域別にみると、「エネルギー」を柱とする領域の正答率が50%を下回っています。
- ・問題形式別にみると、選択式、短答式、記述式の中で、記述式の正答率が最も低くなっています。

正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)



- ・16問以上正解している児童の割合が県・全国と比べて低い傾向にあります。
- ・市の平均正答数は、県・全国と比べ大きな違いはありませんでした。

無回答率グラフ



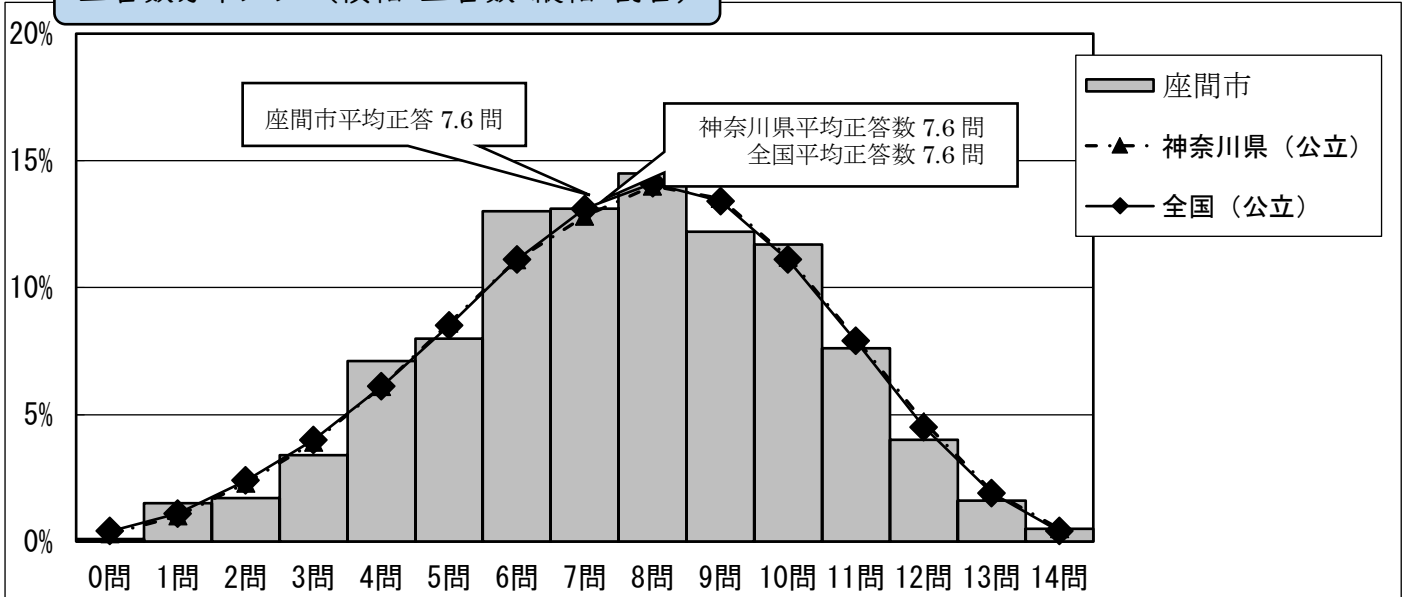
選択式・短答式の問題に比べて、記述式問題(2問目・11問目)の無回答率が高くなっています。

分類・区分別平均正答率

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
				座間市	神奈川県（公立）	全国（公立）
全体			14	54	55	54.3
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	2	49.0	49.0	48.1
		(2) 情報の扱い方に関する事項	0			
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	4	53.0	53.9	53.2
		B 書くこと	5	51.2	52.3	52.8
		C 読むこと	3	63.1	62.9	62.3
問題形式	選択式	8	64.7	64.8	63.9	
	短答式	2	70.2	71.8	73.6	
	記述式	4	24.4	25.4	25.3	

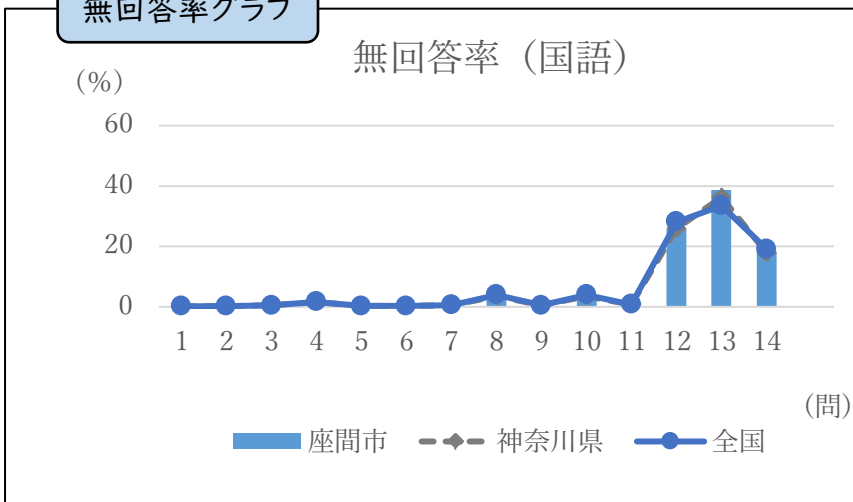
- ・各領域「読むこと」については、全国・県より平均正答率が上回っています。
- ・問題形式では、特に記述式の平均正答率が低く、全国・県と比べると若干下回っています。

正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)



- ・座間市の平均正答数は、県・全国と同じ7.6問です。

無回答率グラフ



無回答率が最も高かったのが、問13で38.6%でした。これは誤って書かれている漢字を見つけて修正する問いでした。次いで問12の25.8%、問14の18.4%でした。この2問は、根拠を明確にして、自分の考えを具体的に書く問いでした。また、無回答率が0%の問いの数が5問あり、問いに対して粘り強く答えようとする意欲がみられました。

課題が見られた問題

四 今年の美術展では、昨年の美術展に会場した小学生の感想をもとに内容を工夫しています。中井さんは、そのことを【ちらし】(更新版②)の□の部分に書き加えることにしました。あなたならどのように書きますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 今年の美術展の【工夫】のA、Bから1つ選び(どちらを選んでもかまいません)、それと結び付く小学生の【感想の一部】をAからUまでの中から1つ選び、それぞれ塗りつぶすこと。

条件2 条件1で選んだ、今年の美術展の【工夫】と小学生の【感想の一部】との関係が分かるように、接続する語句や指示する語句を使って書くこと。

問題1 問四

案内文を書く場合において、漢字を正しく使い自分の伝えたいことを明確になるように書けるかどうか。

課題が見られた問題

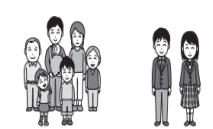
四 村田さんは、【村田さんのスピーチ】の□の内容をより分かりやすく伝えるために、〈スライド⑤〉を工夫したいと考え、あなたに助言を求めています。あなたなら、どのような助言をしますか。あとの【工夫の仕方】のAからCまでの中から1つ選び(どの【工夫の仕方】を選んでもかまいません)、条件1と条件2にしたがって、村田さんへの助言を書きなさい。なお、読み返して文章を直したいときは、線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

【村田さんのスピーチ】の□

今行っている活動を工夫することで、私たちのマリーゴールドと、花を育てる楽しみが地域にも広がります。学校と地域が、マリーゴールドでつながったら、すてきだと思いませんか。

〈スライド⑤〉

「つなごうマリープロジェクト」



【工夫の仕方】

- A 〈スライド⑤〉に、言葉を加える。
- B 〈スライド⑤〉のイラストを修正したり、イラストを付け加えたりする。
- C AとBとを組み合わせる。

条件1 選んだ【工夫の仕方】について、どのように工夫するかを、具体的に書くこと。

条件2 条件1で工夫したことにより、どのように分かりやすくなるかについて、□の内容を具体的にに取り上げて書くこと。

問題2 問四

スピーチで考えを提案する場面で、資料や機器を用いて相手に伝わるように表現することができるか。

分析結果

- ・自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことに課題があります。また、資料や機器を用いて、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することにも課題がみられました。
- ・文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方をとらえることはできています。

指導改善のポイント

○自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くためには

自分の考えが伝わる文章にするためには、意見とそれを支える根拠を明確にして書くことが重要です。まず、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確認することが必要です。その際に接続する語句や指示する語句を用いるなどして、伝えたい事柄とその根拠とを適切に結び付けたり、事実や事柄を具体的に示したりして書くよう指導することが大切です。

○資料や機器を用いた話し方の工夫を考えるために

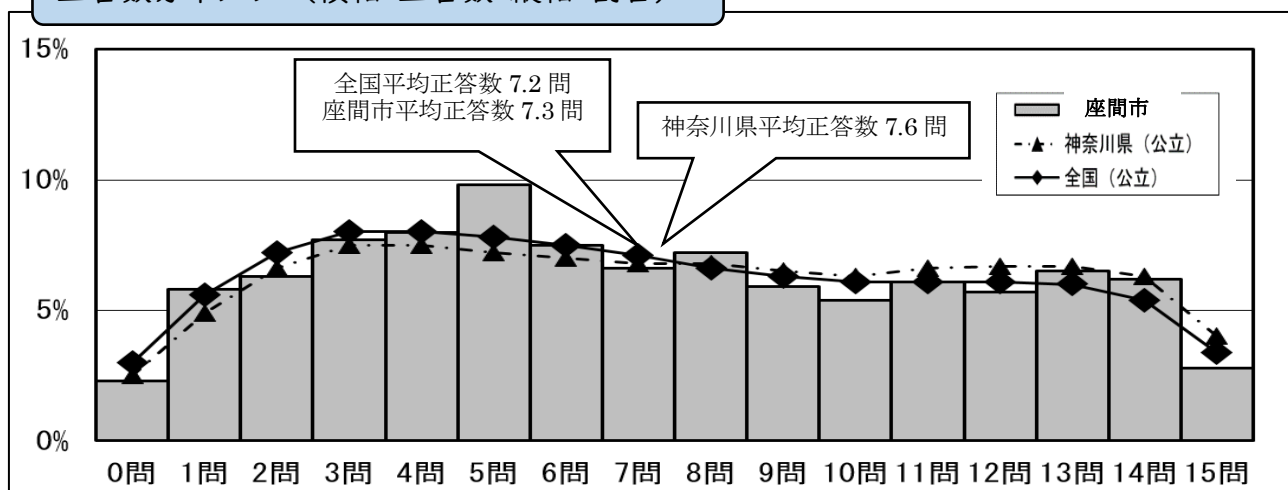
話し方の工夫をする際には、目的や状況、相手に応じて、話し手の考えが正確に伝わり、聞き手の理解をより深めるようにすることが重要です。伝えたい内容を適切に伝えるためには、どのような資料や機器を、どのように用いればよいのかを考えることができるように指導することが大切です。

分類・区分別平均正答率

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			座間市	神奈川県(公立)	全国(公立)
全体		15	49	51	48.3
学習指導要領の 領域	A 数と式	5	44.0	47.1	43.5
	B 図形	4	48.3	50.2	46.5
	C 関数	3	48.9	50.5	48.2
	D データの活用	3	56.1	58.1	58.6
問題形式	選択式	3	57.5	57.9	54.0
	短答式	7	49.6	53.5	52.0
	記述式	5	41.6	42.8	39.6

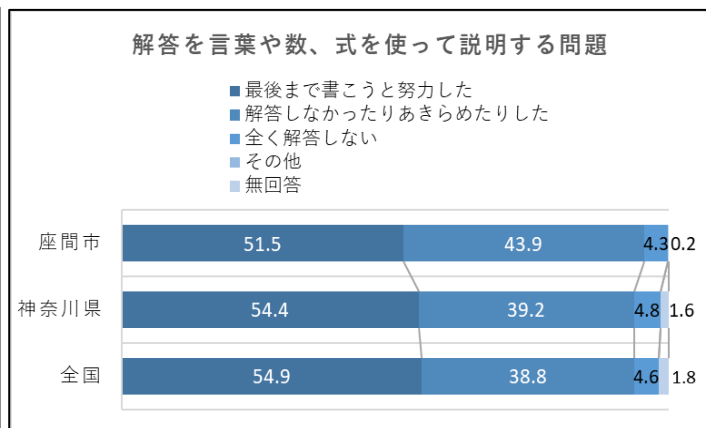
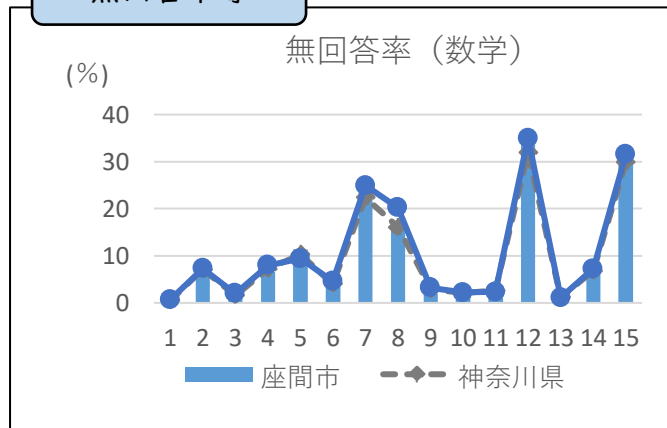
- ・各領域の中では、特に「データの活用」の正答率が全国より下回っています。
- ・問題形式では、特に短答式の正答率が全国より下回っています。

正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)



- ・15問正答した生徒数の割合が県、全国と比べて低くなっていますが、全体的な正答数については、神奈川県・全国とあまり相違が大きくありませんでした。

無回答率等



- ・記述式の問題7,8,12,15は、県・全国と同様に無回答率が高くなっています。
- また、質問紙調査では、「言葉や数、式を使って説明する問題」に対して、最後まで書こうと努力した生徒の割合が、県や全国よりも下回っていることがわかります。

全国の正答率を上回った問題の例

- 7 優斗さんと芽依さんは、地域のイベントで「じゃんけんカードゲーム」を行うことを計画しました。そこで、表に「グー」、「チョキ」、「パー」の絵がかかれたカードをそれぞれ同じ枚数ずつたくさん準備しました。これらのカードを裏にすると、表の「グー」、「チョキ」、「パー」の絵はわかりません。
- 二人は、これらのカードを使ったゲームの進め方を、次のように考えました。



進め方

- ① 準備したすべてのカードを裏にしてよく混ぜ、裏にしたまま、対戦するAとBの手元にそれぞれ3枚ずつ並べる。



- ② AとBは、手元のカードのいずれか1枚を同時に表にする。じゃんけんのルールをもとに勝敗を決め、負けた人は勝った人に表にしたカードを渡す。これを1回目とする。



勝った人に渡す



ただし、あいこのときはカードの受け渡しをせず、1回目を終了する。

- ③ 1回目終了後、自分の手元のカードを、すべて裏にしてよく混ぜてから並べ、②と同様に2回目を行う。
- ④ 2回目終了後、手元のカードの枚数に応じて景品をもらう。

優斗さんと芽依さんは、前ページの進め方でゲームを行うときのAとBのそれぞれの勝ちやすさについて調べることにしました。

次の(1)、(2)の各問に答えなさい。ただし、手元のカードのいずれか1枚を表にするとき、どのカードを表にすることも同様に確からしいものとします。

- (1) 優斗さんと芽依さんは、前ページの進め方で、右の図のようにAとBのそれぞれの手元のカードが同じ絵のカードになる場合があることに気づきました。



Aの手元のカードが3枚とも「グー」、Bの手元のカードが3枚とも「チョキ」で1回目を行うとき、次のことがいえます。

1回目は必ずAが勝つから、1回目にAが勝つ確率は である。

上の に当てはまる数を書きなさい。

全国の正答率を下回った問題の例

- 5 下の表は、ある学級の生徒40人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表です。

ハンドボール投げの記録

階級 (m)	度数 (人)
以上 未満	
5 ~ 10	3
10 ~ 15	8
15 ~ 20	9
20 ~ 25	10
25 ~ 30	6
30 ~ 35	3
35 ~ 40	1
合計	40

20 m 以上 25 m 未満の階級の相対度数を求めなさい。

設問 5

趣旨 与えられた度数分布表について、ある階級の相対度数を求められるかどうかをみる。

設問 7 (1)

趣旨 必ず起こる事柄の確率について理解しているかどうかをみる。

分析結果

- ・ 確率について、必ず起こる事柄の確率は1であることを理解していることがわかりました。
- ・ 階級の相対度数と階級の度数を混同していることが考えられ、相対度数の意味の理解に課題があることがわかりました。

指導改善のポイント

○相対度数の意味を理解できるようにするために

ある階級の度数の総度数に対する割合を求めて、データの特徴を読み取る活動を通して、相対度数の必要性和意味を理解できるように指導することが大切です。また、大きさの異なる二つ以上の集団のデータの傾向を比較する場面を設定し、目的に応じてデータの分布の傾向を的確にとらえ説明できるように指導し、相対度数を用いることの必要性を理解できるようにすることも大切です。

IRT とは

IRT (Item Response Theory, 項目反応理論) とは、児童生徒の正答・誤答が、問題の特性によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論です。国際的な学力調査 (PISA、TIMSS など) や英語資格・検定試験 (TOEIC・TOEFL など) で採用されているテスト理論であり、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし (尺度) で比較できます。

平均 IRT スコア

「中学校理科」の結果を、各学校、教育委員会、都道府県ごとに IRT に基づいて算出し、全国平均を 500 を基準とした IRT スコアで表示しています。

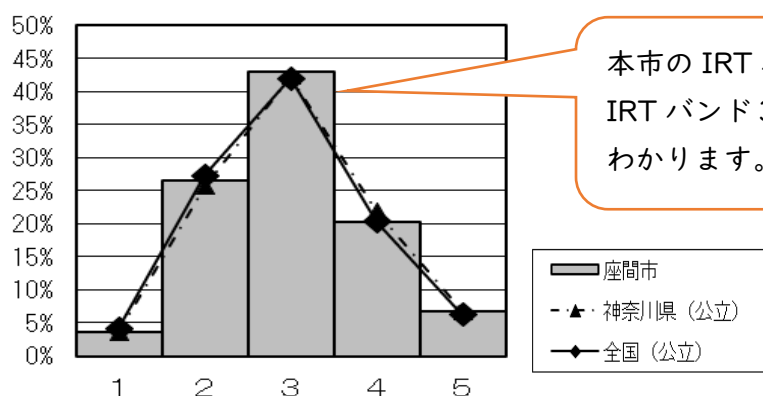
座間市	509
神奈川県	510
全国	503

本市の平均 IRT スコアは、神奈川県より 1 ポイント下回りましたが、全国と比較すると 6 ポイント上回っています。

IRT バンド

「中学校理科」の個人の結果は、5 段階の IRT バンドで表示・返却し、全国平均が 3 で、5 が最も高いバンドとなります。各生徒に対して出題された問題の正誤状況に基づき総合的に推定されるもので、学習評価で用いる評価とは異なります。

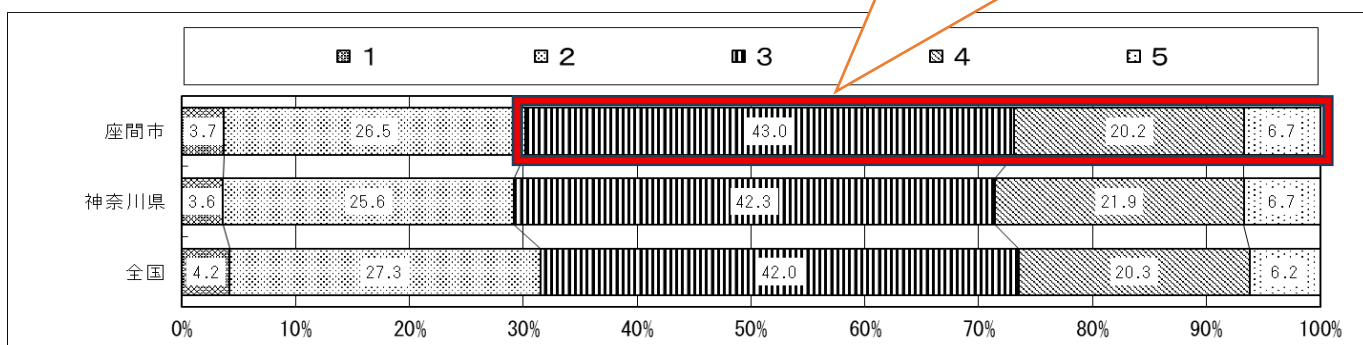
【IRT バンド分布グラフ (横軸：IRT バンド 縦軸：割合)】



本市の IRT バンドの分布から、全国平均である IRT バンド 3 に属する生徒の割合が高いことがわかります。

本市の生徒の約 70% が、IRT バンド 3 以上に属しており、全国と同等であることがわかります。

【IRT バンド分布比較】



課題が見られた問題



生物2、生物4の動画 出典 茨城県立水産科学センター



これまでの学習内容を活用して呼吸を行う生物はどれか、考えてみましょう。



呼吸を行う生物は・・・。

(4)

呼吸を行う生物をすべて選びなさい。なお、生物1から4のすべてを選んでいてもかまいません。



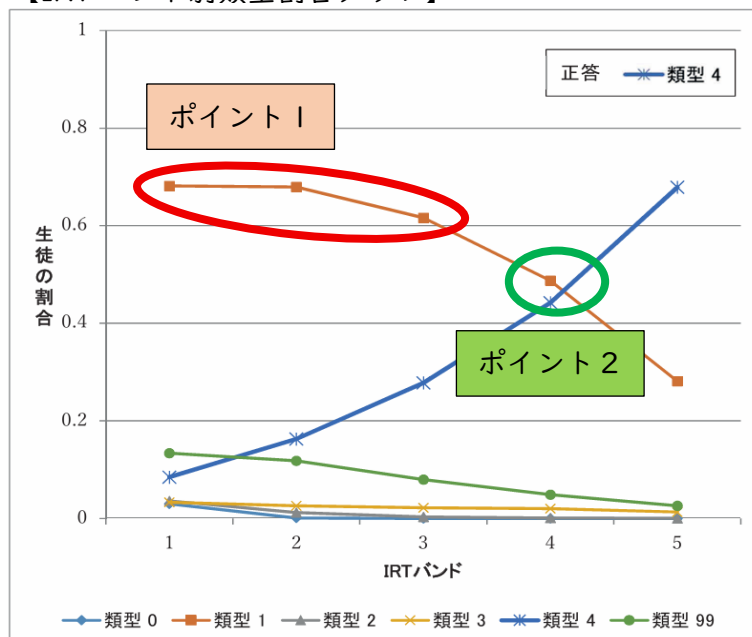
設問1 (4)

水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる問題

正答	解答類型	反応率 %
1	生物1、生物2、生物3、生物1・生物2、 生物1・生物3、生物2・生物3、 生物1・生物2・生物3 と解答しているもの	55.5
2	生物4	0.6
3	生物2・生物4	2.7
◎ 4	生物1・生物2・生物3・生物4	32.1
99	上記以外の解答	9
0	無回答	0

分析結果

【IRT バンド別類型割合グラフ】



ポイント1

IRT バンド1～3に属する生徒の6割以上が解答類型1を解答しています。このことから、動く生物が呼吸を行い、動かない生物が光合成を行うと誤って捉えていると考えられます。

ポイント2

IRT バンド4に属する生徒の約5割が、解答類型1と解答しています。このことから、IRT バンド4に属する生徒においても、誤答の類型を解答している生徒が相当数いることがわかります。

指導改善のポイント

○生命を維持する呼吸の知識をいろいろな生物に活用できるようにするために

観察した生物の共通点と、生命を維持する呼吸の知識とを関連付けて、生命を維持する働きに関する知識を概念として身に付けることが大切です。

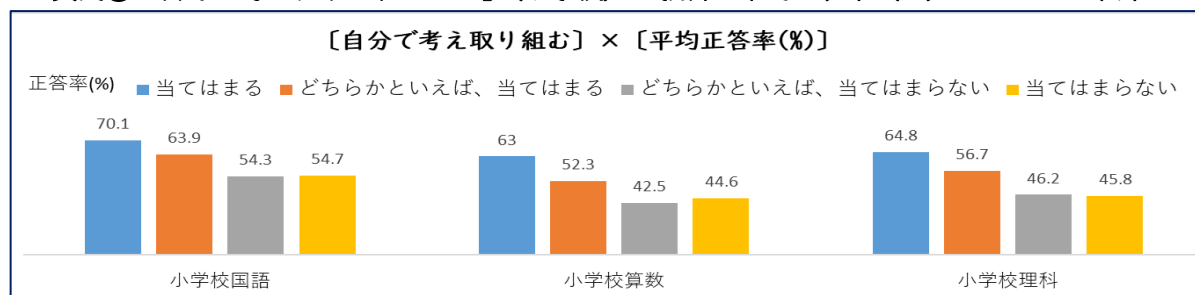
指導に当たっては、「呼吸を行う」、「光合成を行う」などの生物の共通点や相違点を挙げ、生命を維持する働きに関する知識を基に、それらの特徴からいろいろな生物について考察する学習場面を設定することが考えられます。

小・中学校【児童生徒質問紙から見た傾向】

主体的・対話的で深い学び、協働的な学び

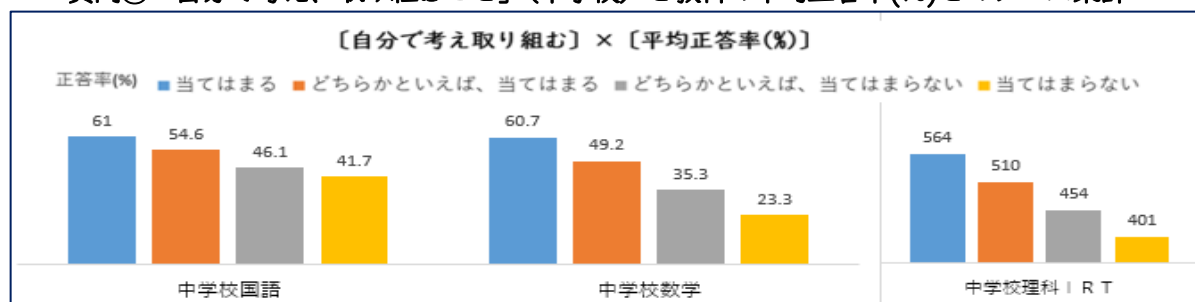
質問② (小学校) 5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

＜質問③「自分で考え、取り組むこと」(小学校)と教科の平均正答率(%)とのクロス集計＞



質問③ (中学校) 1,2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

＜質問③「自分で考え、取り組むこと」(中学校)と教科の平均正答率(%)とのクロス集計＞



2つのクロス集計の結果から、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことは、児童生徒の学力と相関関係にあることがわかります。児童生徒が課題解決に主体的に取り組む、自分の学びを見直し、次の課題を見つけ取り組むことで、より深い理解につながると考えられます。

★★学びの充実・改善のために★★

学校では、校内研究や研修等を通して、児童生徒が主体となる学びに向けた授業改善に取り組んでいきます。

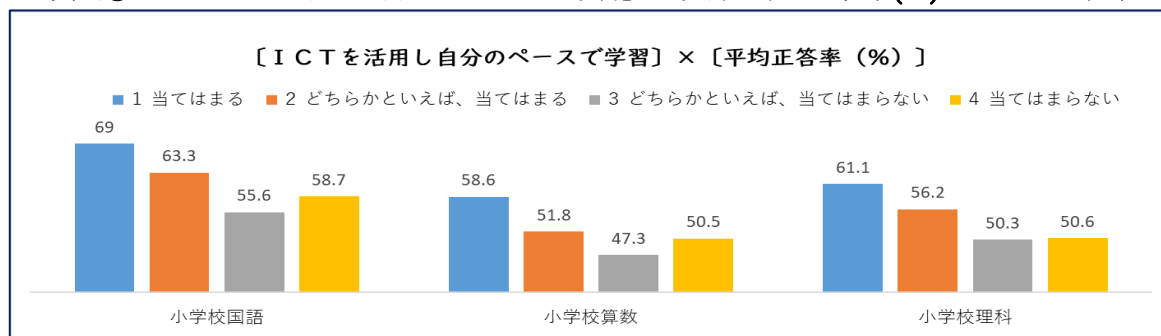
- 自ら課題を見つけ、情報を収集しながら解決策を考える活動に取り組みます。
- 児童生徒が自己選択、自己決定できるような場面を設けます。
- 自分の学びを振り返り、学習を調整することができるようになります。
- 課題解決のために、どのように学んだら良いのか、自分にあった学び方はなにかなど、学ぶ方法も身につけられるようになります。

保護者の皆様には、家庭でも子どもたちが自分でじっくり考え、自分で取り組むことができる機会をもつことの大切さをご理解いただき、子どものことを**すぐに手伝うのではなく温かく見守り、失敗したときには励まし、解決策を考え、次に挑戦していけるよう声かけ**していただければと思います。

ICT 機器の活用

質問③①-1 (小学校) 5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。自分のペースで理解しながら学習を進めることができる。

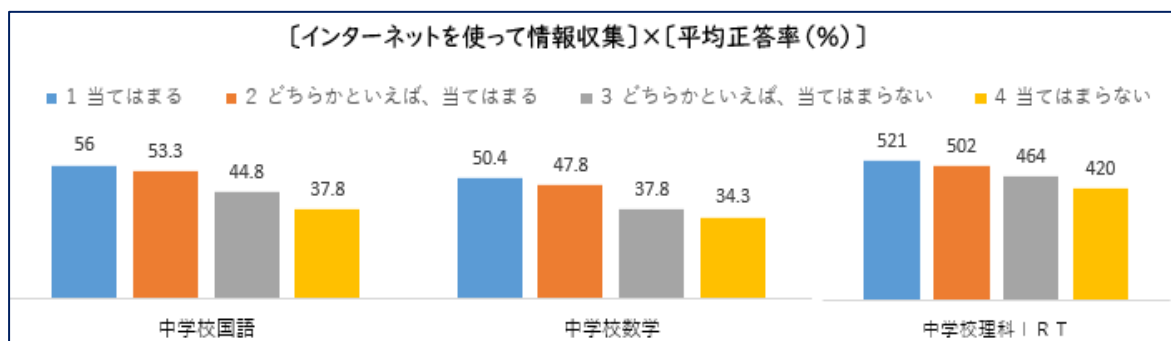
<質問③①-1「ICTを活用し自分のペースで学習」と教科の平均正答率(%)とのクロス集計>



自分のペースで理解しながら学習を進めることができる児童ほど、正答率が高いことがわかります。ICT機器は、その助けになっていると考えられるため、適切に学習に活用していきます。

質問②⑨-2 (中学校) あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する(検索する、調べるなど) ができると思いますか。

<質問②⑨-2「インターネットを使って情報収集」と教科の平均正答率(%)とのクロス集計>



インターネットを使って情報を収集することができるという回答している生徒は、正答率が高いことがわかります。インターネットを使って情報を収集することは、生徒の知的好奇心を高め、理解を深め、表現力を向上させるなど、学力向上に貢献する可能性があります。目的意識を持ってICT機器を活用することが学力向上の鍵になると考えます。

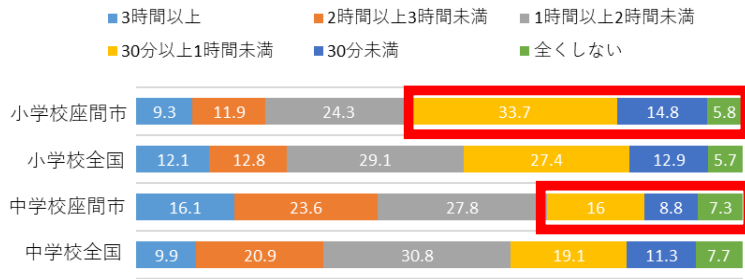
★★ここが大切★★

ここで取り上げた項目以外のICT活用についての質問でも、ICT機器を利活用する自信がある児童生徒ほど、各教科の正答率が高い傾向が見られます。ICT機器の活用は、個別最適な学習機会の提供や学習時間、場所の工夫により、児童生徒の学習意欲や学力の向上に貢献することや、児童生徒が主体的に探求し、理解を深めることができると考えます。ICT機器の効果的な利活用が、学びの一層の充実につながっています。学校と家庭との連携も大切にして、適切な活用ができるようにしていきましょう。

学習習慣

質問⑦ 学校の授業時間以外に普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

〔平日放課後の学習時間〕



小学校では、平日放課後の学習時間が1時間未満の割合が約60%であり、全国より高くなっています。

中学校では、学習習慣が身についている生徒が増えている一方で、全く学習していない生徒も一定数います。

<質問⑦平日学習時間と教科の平均正答率(%)とのクロス集計>

〔平日放課後の学習時間〕×〔平均正答率(%)〕

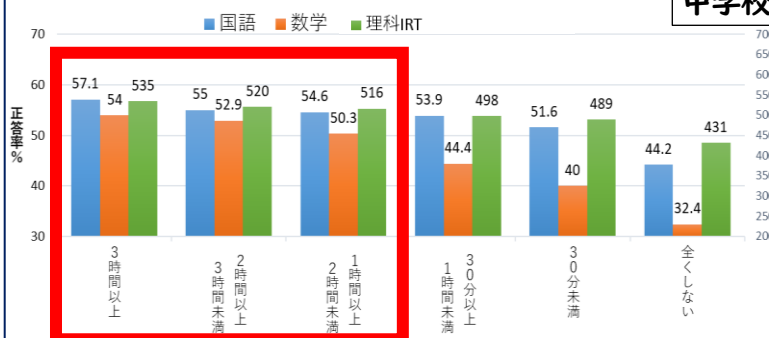
小学校



平日放課後の学習時間が30分未満の児童は、正答率が低い傾向にあり、学習時間が1時間以上の児童は、市平均（国語 63% 算数 53% 理科 56%）を上回る正答率でした。

〔平日放課後の学習時間〕×〔平均正答率(%)〕

中学校



平日放課後の学習時間が30分未満の生徒は、正答率が低い傾向にあり、学習時間が1時間以上の生徒は、市平均（国語 54% 数学 49% 理科 50.9）を上回る正答率でした。

★★ここが大切★★

家庭学習の時間の目安について、よく言われているのは「学年×10分」「学年×10分+10分」などです。学習時間の長さだけでなく学習内容が大切であることは言うまでもありませんが、まずは、**家庭学習を習慣化することが大切です。**

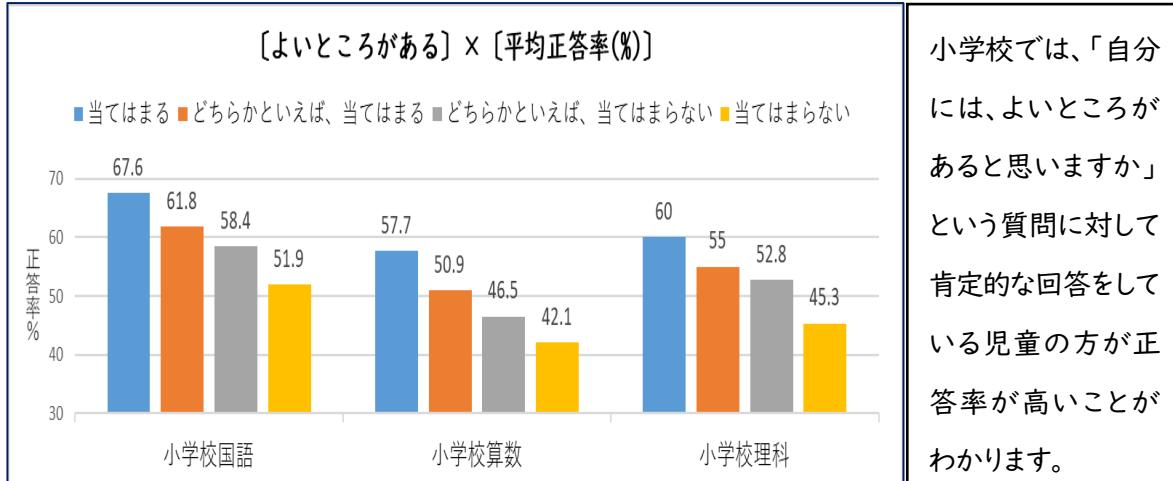
低学年から少しずつ学習時間を伸ばしていく方が無理なくできますが、**今からでも遅くありません。**子どもと一緒に**学習時間の計画を立て**、毎日少しずつ学習に取り組めるようサポートしてあげましょう。**ゲームやスマートフォンの利用時間のルール作りや再確認**も忘れずに行ってください。

また、本や新聞を読むことは、語彙力や読解力が高まるとともに幅広い知識が身につく、他の教科の学習にも良い影響を与えていると考えられます。

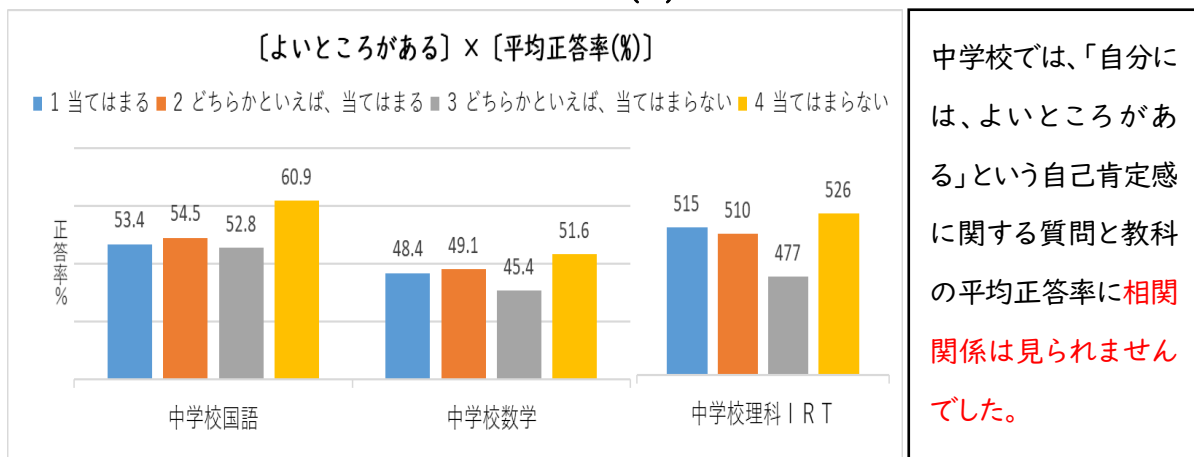
自己肯定感

質問⑤ 自分には、よいところがあると思いますか

<質問⑤「よいところがある」と教科の平均正答率(%)とのクロス集計(小学校)>



<質問⑤「よいところがある」と教科の平均正答率(%)とのクロス集計(中学校)>



★★ここが大切★★

小学校では、自己肯定感の高い児童は、学習にも前向きに取り組んでいることがうかがえます。自己肯定感が学習意欲や成果に良い影響を与えることを考えると、より多くの児童が自分のよいところを見つけ、肯定的に捉えられるようにすることが大切です。

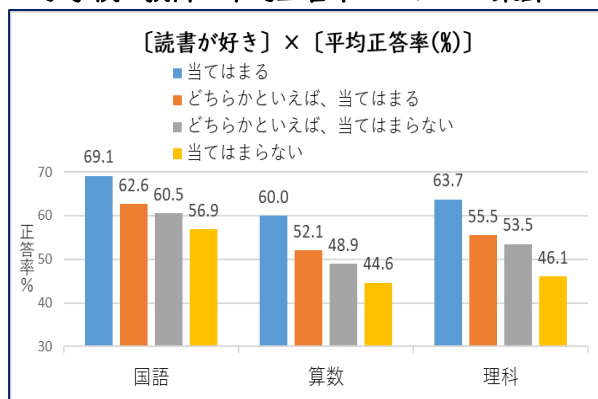
教師や保護者が児童の努力や成果を具体的に褒め、励ますことで、自己肯定感が育まれ、学習意欲も高まると考えられます。

中学校では、自己肯定感が高い生徒が、必ずしも正答率が高いわけではないという結果でした。中学生は「子ども」から「大人」へ、「家庭」から「社会」へと成長する不安定な時期であり、自己を確立する過程において自己肯定感が下がることも考えられます。**他者との比較ではなく、過去の自分と比べて成長した点を認めたり、結果ではなく努力を褒めたり、ポジティブな声かけをすることにより、自己肯定感も高くなり、より学習にも前向きに取り組むことができるのではないのでしょうか。**

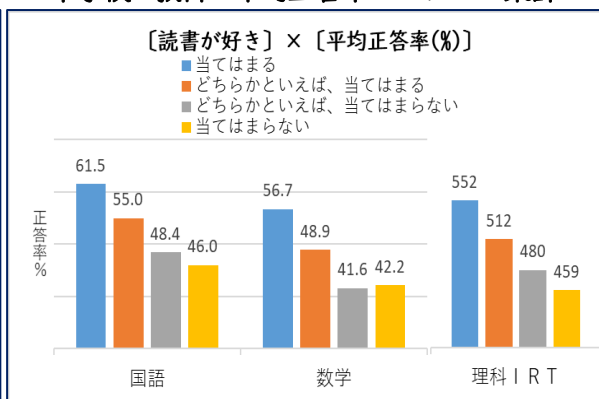
読書習慣

質問②④ 読書は好きですか。

<小学校：教科の平均正答率とのクロス集計>

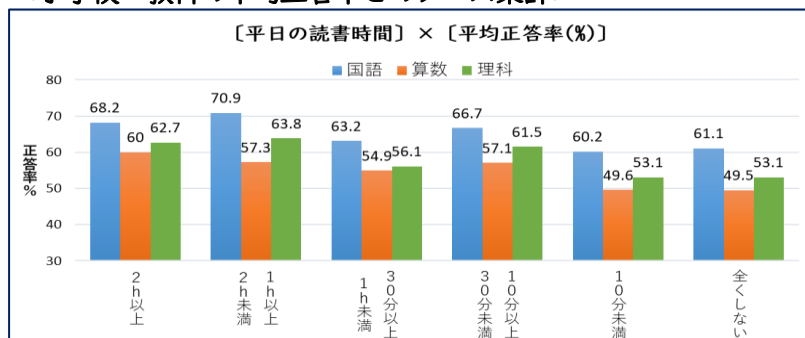


<中学校：教科の平均正答率とのクロス集計>

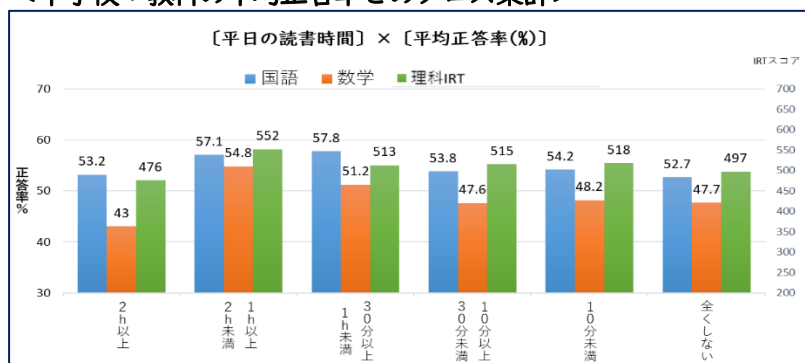


質問②① 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどのくらいの時間、読書をしますか。（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。）

<小学校：教科の平均正答率とのクロス集計>



<中学校：教科の平均正答率とのクロス集計>



「読書は好きですか。」の質問に対して肯定的な回答をしている児童生徒の方が、正答率が高いことがわかります。

「1日当たりどのくらいの時間、読書をしますか。」の質問に対して、小学校では読書時間が長い児童の方が正答率が高いですが、中学校では必ずしもそうではないことがわかります。

中学生は、学習時間の増加に伴い読書の時間が減少していることもあるでしょう。

また、時間ではなく読書時間の質や読む本の内容も影響することが推測されます。

★★ここが大切★★

中学生より時間にゆとりのある小学生時代に、多くの本にふれ、読書に親しむことが大切であると考えられます。読書をする時間の長さよりも、「読書が好き」と回答した児童生徒の正答率が高い結果から、小学生のうちに読書に親しみ、本を読む楽しさを身につけることが、学力の向上につながると考えられます。

学校では、学校図書館の本に児童生徒が親しめるよう、図書館司書を中心に、掲示の工夫や魅力ある本の選定、読み聞かせなど、工夫して取り組んでまいります。

家庭内でも、静かな環境でみんなで本を読む時間を設けたり、図書館に足を運ぶなど、本に親しみ読書の楽しさを感じることができる工夫をしてみてください。

～～～ご家庭で意識していただきたいこと～～～

★規則正しい生活習慣★

「早寝・早起き・朝ごはん」を心がけ、規則正しい生活習慣を身につけられるようにしましょう。
生活習慣が整うと、学校での授業にも集中して取り組むことができます。

★家庭学習の習慣★

質問紙の平日の学習時間に関する質問への回答で「まったくしない」と回答している児童・生徒が約6.5%いました。本に親しむ時間も含め、宿題以外のことにも少しずつ取り組む習慣を身につけていきましょう。



家庭では

- ・お互いにあいさつをしましょう。
- ・「早寝・早起き・朝ごはん」を意識して、生活習慣を整えましょう。
- ・心にゆとりをもって、会話をする時間をつくりましょう。
- ・家族の一員として、子どもにも役割をもたせましょう。
- ・善悪の区別をきちんと教えましょう。
- ・子どものよさを認め、がんばったことをほめましょう。
- ・感謝の気持ちを伝え合いましょう。



★ICT機器の利用★

情報モラルも含め、スマートフォンやゲーム利用に一定のルールを作ることで、規範意識の向上にもつながります。また、スマートフォンやゲームから目を離し、家庭での会話の時間をつくることも大切にししましょう。

★自己肯定感向上につながる声かけや見守り★

子どもの発達段階に合わせて、子どものよさを認め、ほめる機会をつくり、笑顔で声かけをしたり、温かく見守ったりしていきましょう。
自己肯定感は学習意欲だけでなく、将来への希望や前向きな思考や行動にもつながっていきます。